

探訪 長門のいしおみ ④7

普喜井居翁墓碑

この墓碑は、飯山八幡宮の南側を通る市道沿い（藤中・土記）の、小高い雑木林の中ほどにある。

碑の正面にはつぎのように刻まれている。

明治十一年

普喜井居翁之墓

二月十二日

また、碑の左側面には「吹かぬ日も動く姿の柳かな」と、翁の詠んだ発句が添えられている。

「普喜井居翁」とは江戸末期の教育家、普喜七世・菴翁（法名、不二斎唯叟井居居士。深川小学校初代校長・普喜翁の実父）のこと。碑銘に「墓」とあるが、遺骨を納めた埋葬墓ではなく、門弟有志が建てた顕



彰碑的な供養墓である。

普喜家は在郷藩士で、古

くは東深川藤中に本居があった。菴翁は六世・政因の長男で、名は政敏。通称を弥左衛門、のち「菴」といった。10年間の江戸勤番のち帰郷、天保6年（1835）、正明市で私塾「正名堂」を開いた。傍ら、三隅村沢江の「尊聖堂」（塾主・村田清風）講師となる。

嘉永2年（1849）、家督相続。萩へ転居し「明倫館小学舎教授」を拝命。同4年「地下人教諭役」となり、およそ10年のあいだ防長両国を巡講。退役後は正明市へ帰り、子弟の教育に専心する。

世は移り明治5年（1872）、「学制」が制定された。翁の経営する私塾「正名堂」は、公立小学校（深川小学校）発足までの、過渡期における教育行政に大いに貢献した。明治十一年二月没。七十五歳。門弟は千数百人に及ぶという。

翁の業績の顕著なものに、江戸後期に編集した『防長風土注進案』（前大津、先大津を担当）がある。いまも史料価値が高い。

（正）

（寄稿・長門市郷土文化研究会）

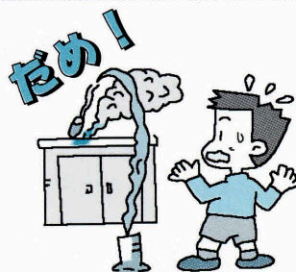


こちら 119

正しく使って楽しい花火！

夏の風物詩花火は、子供たちにとっても楽しいものですが、使い方を間違えると火災の原因となります。次のことに充分注意しましょう。

- 子供だけで遊ばせない。
- 花火を人や家のほうに向けない。
- 燃えやすい物のない広い場所で行う。
- 水バケツを準備して、使い終わった花火は水につけて消す。



長門地区消防本部・中央消防署
火災時の問い合わせ

22-0119
22-1414